

近年は、これまでに蓄積してきた救援活動のノウハウを活かして、一般ボランティアのコーディネーター役や、行政による防災マニュアル作成の際のアドバイザーなども務めるようになりました。



平成 7 年 阪神・淡路大震災



平成 2 年 京都府伊根町重油流出事故



平成 19 年 新潟県中越沖地震



平成 21 年 山口県豪雨水害



平成 24 年 宮城県復興支援作業

◆ 推薦の言葉

寄り添ってくれた災救援隊

戸羽 太 岩手県陸前高田市市長



東日本大震災で壊滅的な被害を受けた岩手県陸前高田市。被災直後の市街地は、すべて津波に流され、まるで空爆を受けた跡のようでした。

そんな時、私たちに救いの手を差し伸べ寄り添ってくださったのが天理教災害救援ひのきしん隊の皆様です。被災前から御縁を頂いていた天理教の皆様が私たちの応援に来てくださった時には、本当に救われた気持ちになりました。特に被災直後は気温も低く、温かい食べ物を欲していた被災者の皆さんに、炊き出しで豚汁などを振る舞っていただき、私のところにも市民からたくさんの感謝の言葉が届きました。

東日本大震災で『絆』という言葉がクローズアップされましたが、私はこの言葉は、まさに災救援隊の皆様と被災地の関係に相応しい言葉だと思っています。寄り添ってくださる誰かがいるという事が、これほどまでに弱った心を強くするものだということを知りました。今後も、災害により心を倒しておられる方々に寄り添うべく、救援活動を継続してくださることを期待申し上げます。



ダンブカー



給水車



パワーショベル

作業に必要な資材・道具はすべて持参

大きな被害を受けた地域の救援や復旧には、
そのための資材、道具も欠かせません。
災救隊は、ダンブカー、パワーショベル、クレーン車などの重機、
トラック、マイクロバス、給水車などの車両、
一輪車、スコップ、脚立、チェーンソー、無線機などの道具を
作業内容に応じて持参します。



一輪車、照明器具



無線機



チェーンソー

◆ 推薦の言葉

さまざまな要請に 対応した災救隊

阿部 秀保 宮城県東松島市長



平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災では、本市においても 1,103 名の方々の尊い命が奪われ、今もなお 28 名の方々が行方不明であり、関係機関の御協力のもと、懸命の捜索を継続しているところであります。

今般の大震災による津波で甚大な被害を受け、大量の土砂が道路等に堆積する中、天理教災害救援ひのきしん隊には、積もった泥やヘドロの処理、瓦礫の搬出、公園・公共施設内の清掃や整備、植樹、炊き出しなど、こちらのさまざまな要請に対応していただきました。支援に出動していただいた人員は延べ 1,000 名を超えており、皆様のご尽力が東松島市復興の推進に大きく貢献くださったことを強く実感しており、重ねて御礼申し上げます。

災救隊は、災害の発生に備えて日頃から訓練を重ねておられ、真心を尽くして作業にあたってくださいました。今後も災救隊が被災地での救援活動にご活躍されることをご期待申し上げます。

衣

隊員は、教区隊ごとに揃いの隊服に身を包み、
結成以来、災救隊のトレードマークともなっている
ブルーのヘルメットを着用します。



食料、飲料水、炊事設備を持参し、
食事はすべて災救隊でまかないます。

食



大釜などの炊事設備



食事の準備

◆ 推薦の言葉

意識の高さに感銘

佐藤 義興 熊本県阿蘇市長



平成 24 年 7 月 12 日未明からの集中豪雨は、観測史上最高の時間雨量 108 ミリを記録。わずか数時間のうちに、阿蘇カルデラ内壁が相次ぎ崩落し、おびただしい量の土砂・岩・瓦礫・流木は、容赦なく人家・田畑を襲うとともに、至るところで河川が氾濫、広範囲にわたり誰もが唖然とする大惨事となりました。

こうした混乱の中、天理教災害救援ひのきしん隊の皆様方には、大量の瓦礫に埋もれた主要道路の確保に、泥だらけになりながら、献身的かつ効率的に携わっていただきました。特に私どもが感銘を受けたのが、作業資機材はもちろん、衣・食・住と全てにおいて自己完結型であり、意識の高さと統率された行動に、これまでの経験の深さを改めて感じました。

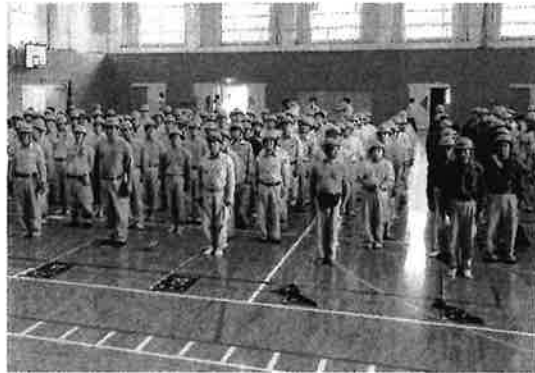
120 余年もの長い間、崇高な精神が引き継がれ、今なお訓練を重ねられておられますことに、行政としても学ぶべき姿があると強く思います。皆様方には、被災地のニーズに的確かつ機動的に対応できるボランティア団体として活躍されますことを期待します。



土砂崩れを起こした斜面に石段を造成



道路を塞ぐ倒木の処理



規律訓練



土裏で土砂崩れを防止



◆ 推薦の言葉

日頃の訓練の賜物

井戸 敏三 兵庫県知事

天理教災害救援ひのきしん隊には、平成7年の阪神・淡路大震災において、医療活動や給水支援、瓦礫処理等を、資機材の調達や隊員の宿泊場所の確保を含めて、自己完結型の体制で出動していただきました。また、その後に発生した自然災害や大規模事故にも、力強いご支援をいただいています。こうした効果的な活動は、日頃の訓練があるからこそできるものです。

以前、私も新温泉町で行われた災救隊の訓練の様子を拝見しました。近畿全域から集まった隊員の皆様が、生態系を脅かす外来植物の除去や、遊歩道の整備等の野外作業訓練を行い、統率のとれた組織力を磨いておられる姿が印象的でした。その後、新温泉町が大雪に見舞われると、災救隊がいち早く駆けつけ、家屋の除雪作業などに大きな力を発揮されました。感謝とともに、その機動力に感動しています。

災救隊には、これからも行政やほかのボランティア団体との連携を深めながら、いざというときに力強く活動し、被災地のために活躍されることを期待しています。

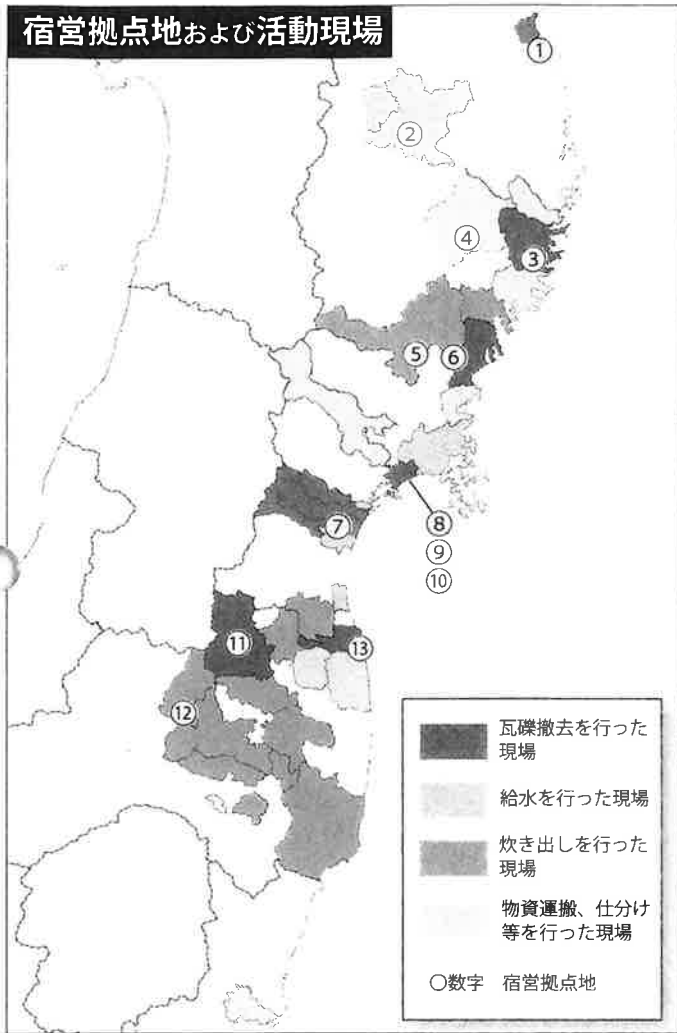


災害救援の主な出動地《明治24年～平成25年》

明治24年 濃尾地震
 明治43年 東京豪雨水害
 大正6年 関東地方暴風雨(540名)
 大正12年 関東大震災
 大正14年 北但馬地震(120名)
 昭和9年 室戸台風(20,000名)
 昭和18年 鳥取地震(1,130名)
 昭和23年 福井地震(3,758名)
 昭和25年 ジェーン台風(2,350名)
 昭和32年 諫早豪雨(1,000名)
 昭和33年 狩野川台風(2,745名)
 昭和34年 伊勢湾台風(7,000名)
 昭和36年 第2室戸台風(400名)
 昭和46年 愛知県蒲都市 台風23号水害(83名)
 千葉県下 台風25号水害(100名)
 三重県熊野市 豪雨水害(1,000名)
この頃、各都道府県に災救隊結成
 昭和47年 岡山県総社市 豪雨水害(180名)
 熊本県御船町 豪雨水害(120名)
 高知県土佐山田町 山崩れ(900名)
 広島県三次市 水害(400名)
 島根県桜江町 水害(300名)
 昭和48年 福岡県志免町 豪雨水害(200名)
 青森県むつ市 豪雨水害(57名)
 昭和49年 伊豆半島沖地震(500名)
 香川県小豆島 台風8号水害(350名)
 愛知県篠島 台風8号水害(75名)
 三重県津市、四日市市 豪雨水害(300名)
 昭和50年 大分県九重町 大分県中部地方地震(21名)
 山形県真室川町 台風5、6号水害(120名)
 昭和51年 岐阜県岐阜市・安八郡 台風17号水害(1,300名)
 岡山県備前市・日生町 台風17号水害(500名)
 香川県津田町・小豆島 台風17号水害(600名)
 徳島県牟岐町 豪雨水害(109名)
 神奈川県横浜市 火災(250名)
 昭和52年 青森県弘前市 豪雨水害(151名)
 有珠山噴火災害(780名)
 茨城県北茨城市 台風11号水害(60名)
 昭和53年 静岡県伊豆半島 伊豆大島近海地震(600名)
 昭和56年 新潟県下 豪雪(750名)
 茨城県竜ヶ崎市 台風15号水害(80名)
 昭和57年 長崎県長崎市 豪雨水害(3,000名)
 奈良県王寺町 台風10号水害(100名)
 昭和58年 日本海中部地震(98名)
 島根県益田市・三隅町 梅雨前線豪雨(6,081名)
 山梨県富士吉田市 台風5号水害(162名)
 長野県下諏訪町 火災(415名)
 昭和60年 奈良県奈良市 火災(55名)
 昭和61年 鹿児島県鹿児島市 豪雨水害(122名)
 京都府和束町 豪雨水害(88名)
 栃木県茂木町 台風10号水害(353名)
 昭和62年 山口県宇部市 火災(102名)
 平成2年 京都府与謝郡伊根町 重油流出事故(448名)
 佐賀県杵島郡 豪雨(41名)

平成2年 大分県竹田市 豪雨(90名)
 平成4年 雲仙普賢岳噴火(188名)
 平成5年 北海道南西沖地震(1,170名)
 平成7年 阪神・淡路大震災(19,692名)
 山形県西田川郡 豪雨水害(42名)
 平成9年 日本海重油流出事故(4,300名)
 平成10年 福島県白河市・栃木県那須郡・茨城県大洗海岸
 豪雨水害(1,700名)
 高知県高知市 台風7号水害(1,000名)
 平成11年 熊本県不知火町 台風18号による高潮(530名)
 岩手県軽米町 豪雨水害(260名)
 台湾台中県 台湾大地震(100名)
 平成12年 有珠山噴火災害(2,000名)
 三宅島噴火災害(20名)
 愛知県西枇杷島町 豪雨水害(1,650名)
 岐阜県上矢作町 豪雨水害(85名)
 鳥取西部地震(100名)
 平成13年 広島県呉市 芸予地震(121名)
 高知県西南豪雨水害(343名)
初の海外隊として台湾隊結成
 台湾台北市 台風16号水害(150名)
 平成14年 栃木県栃木市・岩手県釜石市 台風6号(123名)
 平成15年 福岡県飯塚市 豪雨水害(75名)
 宮城県連続地震(822名)
 平成16年 福井集中豪雨(581名)
 兵庫県豊岡市 台風23号(751名)
 新潟県中越大震災(1,476名)
 平成17年 新潟県長岡市 雪害(85名)
 宮崎県宮崎市 台風14号(329名)
 平成18年 長野県諏訪市・岡谷市 豪雨水害(378名)
 宮崎県延岡市 台風13号(144名)
 平成19年 能登半島地震(624名)
 新潟県中越沖地震(1,209名)
 平成20年 愛知県岡崎市 ゲリラ豪雨(551名)
 平成21年 山口県宇部市 豪雨水害(663名)
 台湾嘉義県民雄郷 台風8号(92名)
 兵庫県佐用町 台風9号(1,064名)
 平成22年 鹿児島県奄美市 豪雨水害(412名)
 山口県山陽小野田市 豪雨水害(245名)
 平成23年 兵庫県新温泉町 豪雪被害(88名)
 東日本大震災(30,329名)
 宮崎県新燃岳噴火災害(207名)
 新潟県魚沼市・阿賀町 豪雨水害(766名)
 紀伊半島 台風12号(746名)
 平成24年 新潟県長岡市・小千谷市・十日町市・魚沼市・南魚
 沼市 豪雪被害(244名)
 茨城県つくば市 竜巻被害(691名)
 九州北部豪雨(1407名)
 平成25年 新潟県長岡市 豪雨水害(304名)
 山口県萩市 豪雨水害(827名)
 岩手県矢巾町 豪雨水害(102名)
 埼玉県越谷市 竜巻被害(128名)
 東京都伊豆大島 台風26号(87名)

《参考資料》東日本大震災における出動記録



野田宿営地

宿営拠点 ①天理教南陸中分教会（岩手県野田村）

盛岡宿営地

宿営拠点 ②天理教岩手教務支庁（盛岡市）

遠野宿営地

宿営拠点 ③天理教釜石港分教会（釜石市）
④遠野市清養園保養センター（遠野市）

千厩宿営地

宿営拠点 ⑤天理教磐井分教会（一関市）
⑥千厩みなみ交流センター（一関市）

東松島宿営地

宿営拠点 ⑦天理教官城教務支庁（仙台市）
⑧赤井公民館南区西地区分館（東松島市）
⑨鷹来の森運動公園（東松島市）
⑩表地区センター（東松島市）

福島川桁宿営地

宿営拠点 ⑪天理教福島教務支庁（福島市）
⑫川桁東部地区ふれあいセンター（猪苗代町）

福島相馬宿営地

宿営拠点 ⑬天理教中村分教会（相馬市）

※その他、天理教教会を拠点に活動した

延べ出動人数 30,329人

(平成 24 年 6 月末時点)

瓦礫撤去 瓦礫搬出量 約 21,400 トン

出動教区隊：北海道、青森、秋田、岩手、山形、宮城、茨城、栃木、群馬、東京、埼玉、千葉、新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、高知、福岡、佐賀、長崎、大分、宮崎、鹿児島

活動現場：岩手県 野田村、釜石市、陸前高田市
宮城県 気仙沼市、東松島市、仙台市
福島県 福島市、相馬市

給水活動 給水量 約 2,500 トン

出動教区隊：青森、秋田、山形、宮城、栃木、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、富山、福井、山梨、長野、愛知、京都、奈良、和歌山、徳島、香川、愛媛

活動現場：宮城県 気仙沼市、東松島市、仙台市、多賀城市、石巻市、山元町、名取市
福島県 福島市

炊き出し 炊き出し数 約 33,000 食

出動教区隊：青森、山形、茨城、埼玉、千葉、神奈川、富山、福井、山梨、長野、岐阜、滋賀、奈良、和歌山、島根、岡山、広島、高知、佐賀、長崎、熊本、大分、沖縄、台湾

活動現場：岩手県 一関市、陸前高田市
宮城県 気仙沼市、丸森町
福島県 二本松市、福島市、郡山市、須賀川市、いわき市、田村市、伊達市、石川町、猪苗代町、小野町

物資運搬(給水を含む)、仕分け、後方支援

出動教区隊：岩手、福島、宮城、三重、大阪、兵庫、奈良
活動現場：岩手県 釜石市、陸前高田市、大船渡市、盛岡市、一関市

宮城県 石巻市、気仙沼市、東松島市、南三陸町
福島県 相馬市、南相馬市、いわき市、福島市、飯館村、猪苗代町
茨城県 水戸市

その他の活動現場：岩手県 滝沢村、大槌町

千葉でも避難いじめ

訴訟弁護団確認 3世帯の子供

東京電力福島第1原発事故に絡み、福島県から千葉県内に避難した3世帯の子供が「転校先の学校でいじめを受けた」などと話していることが27日、分かった。国と東電に損害賠償を求め千葉地裁で集団訴訟を起こしている避難者らの弁護団が明らかにした。弁護団によると、3世帯はいずれも千葉地裁の訴訟の原告で、意見陳述でいじめ被害を訴えるなどしているという。

福島県南相馬市から事故直後に千葉県木更津市に避難してきた1世帯では、当時中学生の男子生徒が転校先で同級生から「放射能がうつる」などと言われたという。原告側は、男子生徒がその後「通院や別の学校

へ」の転校を余儀なくされたと主張している。福島県花見川区に避難した別の1世帯でも、転校先の小学校で子供が同級生らから「何で福島から来たんだ」などと言われたため、市外へ引

越し。新たな転校先では教育委員会と相談し、福島県からの避難を伏せることにしたという。また、横浜市のいじめ被害が報道されたため弁護団で行った結果、新たに別の千葉市教委も、市内の小

1世帯でも子供が「学校でいじめられた」と話し始めたという。千葉県教委によると、昨年5月1日時点で千葉市を除く県内に避難している児童・生徒は270人。県教委は昨年12月、今年1月中旬、在籍している学校を通じて個人面談や保護者への連絡などを行って調査した結果、いじめは確認できなかったと発表していた。

原発事故や震災避難者へのいじめと指摘された事例

福島県から横浜市に避難した中学1年の男子生徒	▶小学生時代に同級生から「放射能」と呼ばれたほか、ゲームセンターでの遊興費などとして計約150万円を支払う
福島県から避難した東京都千代田区立中の生徒	▶同級生から、避難者であることを「みんなにばらすよ」と言われ、菓子代など計約1万円分を支払う
群馬県に避難した子供(いじめ内容や出身地、小中学校の区分など詳しくは公表せず)	▶同級生から悪口を言われる
福島県から新潟市に避難した小学4年の男子児童	▶担任から名前に「菌」をつけられて呼ばれる
福島県から川崎市に避難した中学の男子生徒(すでに卒業)	▶同級生から「福島県民はばかだ」と言われたほか、蹴るなどの暴力を受けた
福島県から千葉県に避難した計3世帯の子供	▶「放射能がうつる」「何で福島から来たんだ」などと言われる

教委求められる調査の工夫

相次ぐ被害

福島原発事故の影響で首都圏などに避難した児童生徒が、転校先でいじめが疑われる被害に遭ったケースが後を絶たない。いじめ把握に向けた教育委員会などの調査のあり方も改善が求められそうだ。

前につけられるなどし、市教委の第三者委員会がいじめと認定した。同市での問題発覚以降、複数の自治体で同様のケースが表面化。新潟市では小4男児が同級生から「〇〇菌」とか

らかわれ、担任の男性教諭からも名前に「菌」を付けて呼ばれたことにショックを受け、学校を1週間以上休んでいることが明らかになった。川崎市では市立中学に進学した男子生徒が同級生から

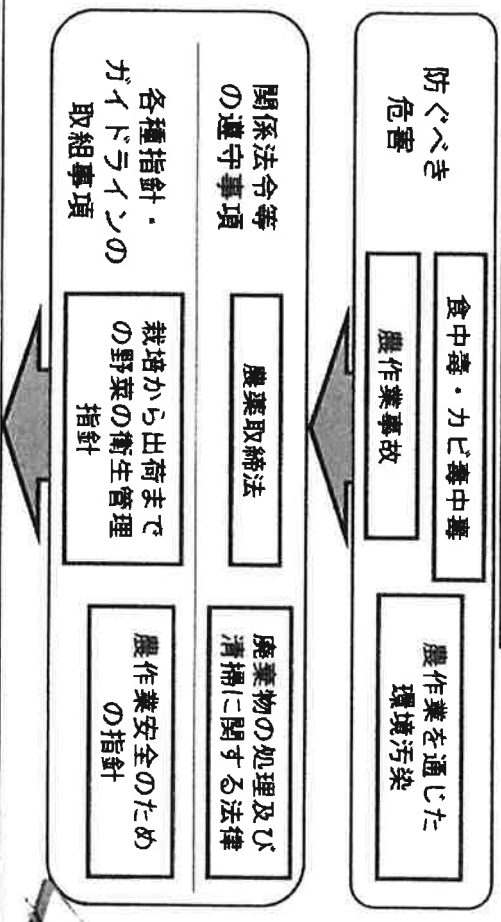
「近づくな」などと言われ、群馬県では公立小中学校で同級生から悪口を1回言われたケースがあった。文科省は昨年12月、各教育委員会に対し、面談や保護者への連絡などを通じ、いじめ

や悩みの有無を確認するよう求める通知を出しているが、「いじめ被害を言いたがらない児童や生徒も少なくない」(文科省幹部)ため、各教委の調査には工夫と慎重さが求められる。

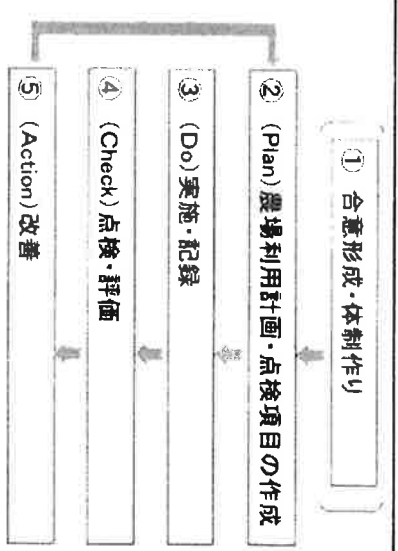
農業生産工程管理(GAP)とは

農業生産工程管理 (GAP: Good Agricultural Practice) とは、
 農業生産活動の持続性を確保するため、**食品安全、環境保全、労働安全に関する法令等を遵守するための点検項目を定め、その実施、記録、点検、評価を繰り返しつつ生産工程の管理や改善を行う取組のこと。**

1 合意形成、体制作り



2 産地におけるPDCAサイクルによるGAPの実施体制

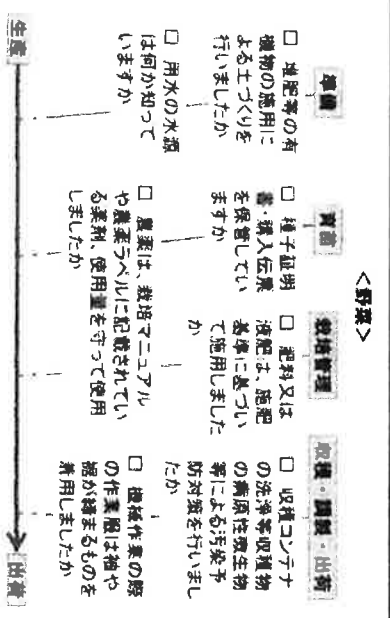


食品安全・環境保全・労働安全について実施すべき取組を明確化したものをGAPとして策定し、実施体制を構築

GAP導入の効果

- ・農産物の病原微生物等による汚染の低減等を通じた**食品の安全性向上**
- ・農薬や肥料による環境負荷を通じた**環境の保全**
- ・農作業中の事故の回避等を通じた**労働安全の確保**
- ・土壌診断を踏まえた肥料の適正施用等を通じた**資材コストの低減**等

3 実施・記録のイメージ



農業生産工程管理(GAP)普及啓発：11/29 / 農水省(資料)作成